

株式会社アルファシステムズ

第46期 中間報告書

2017年4月1日から2017年9月30日まで





代表取締役社長 黒田 憲一

1 第46期中間期の事業環境や業績についてお聞かせください。

良好な事業環境のもと、 緊急支援プロジェクトで強みを発揮

良好な事業環境のもと、当中間期の決算は、期初の予想を上回る増収増益となりました。現在、企業のIT投資は非常に活発で、多くの引き合いをいただ

45周年を迎えた今、あらためて独創性

いており、当社の要員稼働率は高い水準を維持しています。これに加えて、お客様から緊急支援プロジェクトの依頼を受けるなど、一時的な増収要因もありました。

緊急支援プロジェクトとは、進行中に品質等の問題が発生してしまった他社のプロジェクトに対して、当社が技術支援を行うものです。このような場面では、当社の強みが大いに発揮されます。

2 通期の業績をどのように見通していますか。

オープンシステム分野が引き続き好調で、 増収増益を予想

事業環境は引き続き堅調であると予想しており、当中間期の状況を踏まえて、通期の業績予想も上方修正いたしました。オープンシステム分野が引き続き好調で、増収増益を予想しています。特に、消費者向けEコマースをはじめとするインターネットビジネス関連のシステム開発が大きく伸長しており、オープンシステム事業の拡大をけん引する新たな主力分野となっています。とはいえ、ソフトウェア開発は、様々な不確定要素により、プロジェクトが不

採算化するリスクを常にはらんでいます。そのため、プロジェクト管理を徹底し、不採算化する芽を早期に摘み取るよう取り組んでいます。良好な事業環境に油断せず、目の前の業務に真摯に取り組み、通期目標を達成してまいります。

3 45周年という節目の年にあたり、これまでの成長を支えてきた要因は何だとお考えですか。

創業者の想い「独創的な会社をつくろう」を実践

当社は、「独創的な会社をつくろう」という創業者の想いのもと、通信システム分野に特化することで、独創的な会社として成長してきました。この「独創」の精神は、他社とは違う特徴を持った競争力のある会社で在りたいという想いとして受け継がれています。この「独創」への挑戦を真面目に続けてきたことが、これまでの成長を支えてきた要因だと考えています。

お客様のニーズをしっかりと捉える

当社には、顧客満足を実践するための行動理念として、「わたしたちは、先ず聞き、次によく聴き、そし

を追求し、成長し続けられる会社を目指します。



て聞いてもらって行動します」というものがあります。独創性や他社との違いにこだわるあまり、お客様が望まない製品やサービスを提供しても意味がありません。当社では、お客様目線に立ち、密度の高いコミュニケーションの中でしっかりとニーズを捉え、それを製品やサービスという形で提供していくことに重きを置いています。

プロパー主義の開発体制で技術・ノウハウを蓄積

また当社は、徹底して社内に技術やノウハウを蓄積することにこだわっています。このため、外部委託を最小限に抑える、いわゆるプロパー主義の方針を採ってきました。受託ビジネスの売上高は、技術者の人数に大きく依存するため、外部への委託を増やせばその分、売り上げも増えます。反面、外部への委託に頼りすぎると、技術やノウハウを社内に蓄積することが困難になり、製品やサービスの質の低下や、他社との差別化につながる魅力的な提案が難しくなっていきます。IT業界では、何重にも及ぶ外部委託が広く一般化していますので、プロパー主義の経営方針は、当社を十分に「独創的な会社」にしていると言えるかもしれません。

4 今後の取り組みや方向性についてお聞かせください。

お客様のニーズに合わせた対応で、ビジネスに貢献

めまぐるしく変化するIT業界では、ソフトウェア開発の技術も常に新しいものが求められます。また、事業の拡大とともに取引先が増え、求められる技術も多様化、複雑化しています。ある技術を全社に展開すれば対応できるという状況から、お客様それぞれのニーズに合わせた対応が求められる状況に変わってきています。このような事業環境を踏まえ、昨年度より事業部門の中に「開発推進部」を設置することにいたしました。「開発推進部」では、お客様のニーズに合わせた先端技術の獲得や、お客様のビジネスにさらに貢献するための協働体制の構築を推進します。お客様の話をよく聴き、しっかりとニーズを捉えることで、製品やサービスの質の向上はもとより、そこから新しいビジネス創出のヒントも得られるのではないかと期待しています。

独創性を追求し、成長し続けられる会社へ

これからも創業者の「独創的な会社をつくろう」という想いのもと、製品・サービスを磨き続けるとともに、お客様の要望をよく聴き、真摯に向き合っていきたいと考えています。「独創」の精神を、常に当社の根底に流れる首尾一貫した考え方として位置づけ、これから何十年でも成長し続けられる会社を目指してまいります。

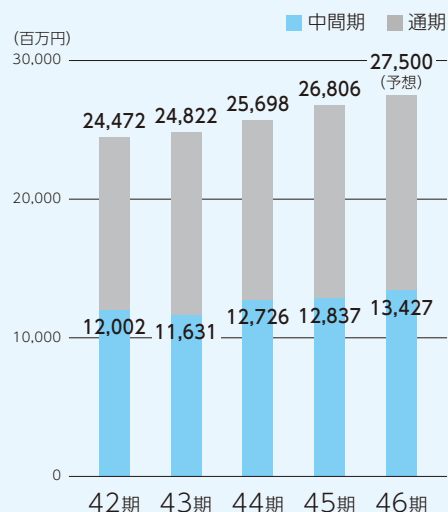
5 株主の皆様にメッセージをお願いします。

おかげさまで、当社は2017年10月11日をもちまして、創業45周年を迎えました。これもひとえに、お客様、株主の皆様、地域の皆様、取引先企業様の永年にわたるご愛顧ご支援の賜物であり、役員・社員一同、心より感謝申し上げます。

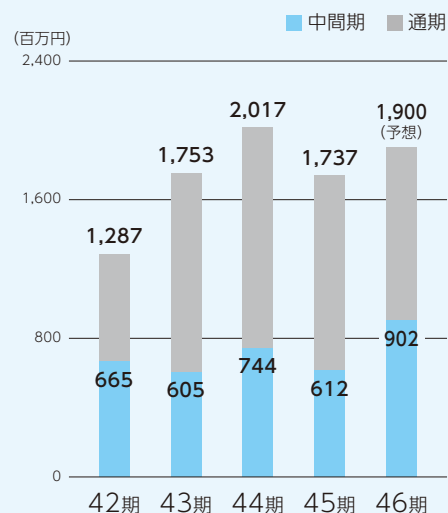
今後とも皆様への感謝の気持ちを持ち続けながら、さらなる成長に向け、なお一層の努力を重ねてまいります。末永くご愛顧いただけますよう、お願い申し上げます。

事業概況のご報告

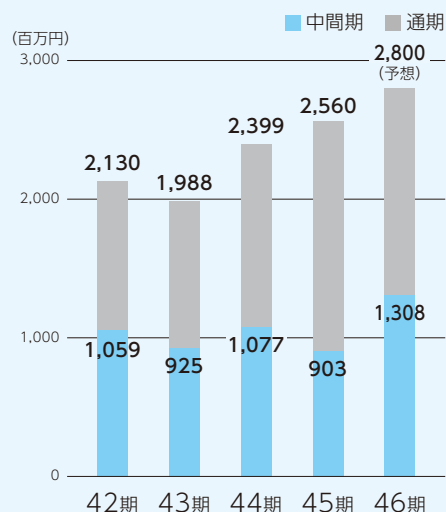
売上高



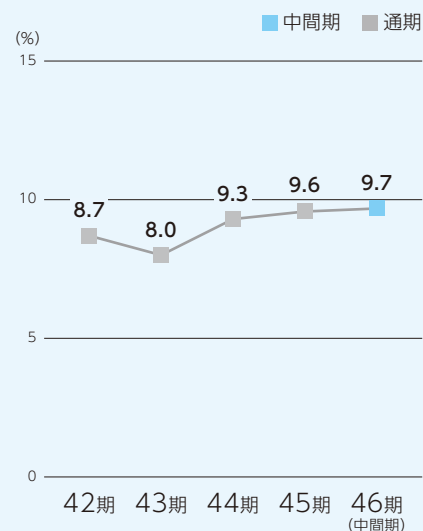
当期純利益



営業利益



売上高営業利益率



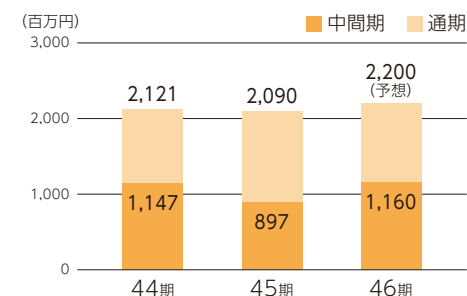
事業区分別の概況 (売上高)

通信システム

ネットワークマネジメントシステム関連及びノードシステム関連の売り上げが増加したことにより、売上高は5,157百万円 (前年同期比5.1%増)となりました。

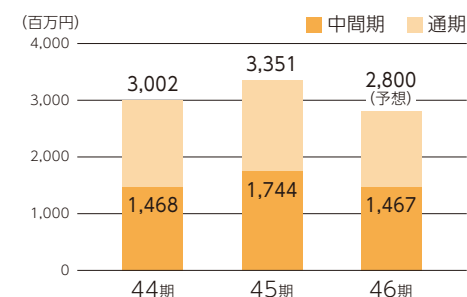
ノード

交換システム関連の売り上げが増加したことにより、売上高は1,160百万円 (前年同期比29.3%増)となりました。



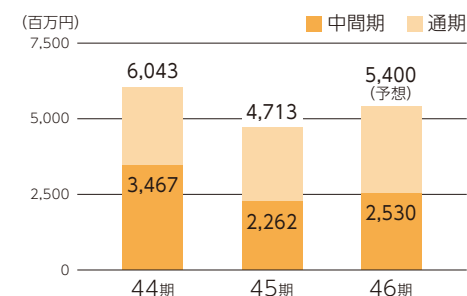
モバイルネットワーク

業務用無線システム関連の売り上げが減少したことにより、売上高は1,467百万円 (前年同期比15.9%減)となりました。



ネットワークマネジメント

次世代ネットワーク (NGN) 関連の売り上げが増加したことにより、売上高は2,530百万円 (前年同期比11.8%増)となりました。

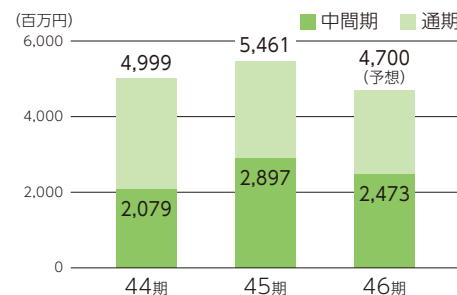


オープンシステム

流通・サービス関連の売り上げが増加したことにより、売上高は7,110百万円(前年同期比3.8%増)となりました。

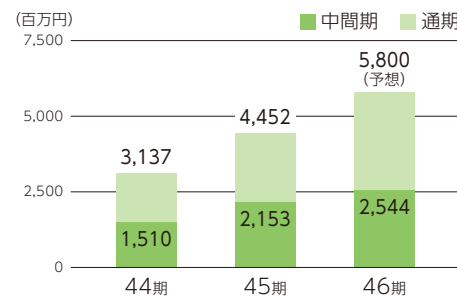
公共

エネルギーシステム関連の売り上げが減少したことにより、売上高は2,473百万円(前年同期比14.6%減)となりました。



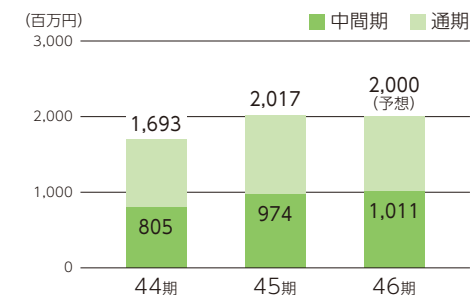
流通・サービス

インターネットビジネス関連の売り上げが増加したことにより、売上高は2,544百万円(前年同期比18.2%増)となりました。



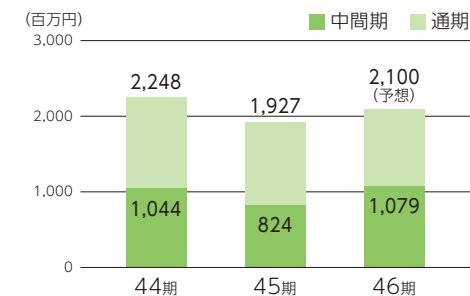
金融

銀行システム関連の売り上げが増加したことにより、売上高は1,011百万円(前年同期比3.9%増)となりました。



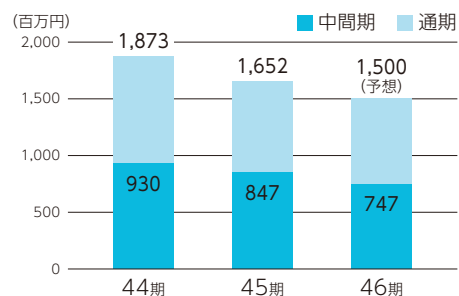
その他

その他の企業向けシステム関連の売り上げが増加したことにより、売上高は1,079百万円(前年同期比31.0%増)となりました。



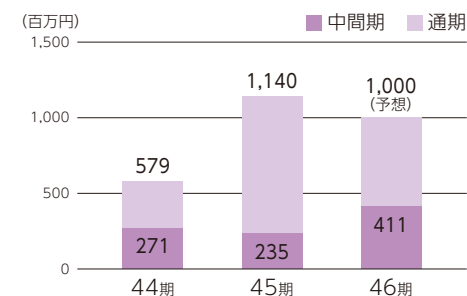
組み込みシステム

OA機器関連及び計測・制御機器関連の売り上げが減少したことにより、売上高は747百万円(前年同期比11.9%減)となりました。



その他

文教ソリューション関連の売り上げが増加したことにより、売上高は411百万円(前年同期比75.1%増)となりました。



デジタル革命時代の到来、産業の垣根を超えて 価値を生み出すICT

市場は拡大基調、開発要員不足が顕在化

幅広い分野で企業の投資意欲は依然強固

日銀短観 2017年度ソフトウェア投資見通しは前年度比6.3%プラス

経済産業省特定サービス産業動態統計「受注ソフトウェア」は5年連続の前年比プラス

ITへの対応ニーズの顕在化

マイナンバー対応をはじめとする官公庁システムの高度化

金融・郵政システムの大規模更改

電力・ガスシステムの改革

様々な産業の基盤となる次世代通信システムへの期待

高度化するサイバー攻撃や情報セキュリティリスクへの対策

IT技術の高度化

ソフトウェアのサービス化、APIエコノミーの拡大

あらゆるものがソフトウェアで制御される時代へ

人工知能による、意思決定支援や作業プロセスの自動化

トピックス

国の成長戦略と未来投資（金融緩和、公共投資、民間主導、Society 5.0）

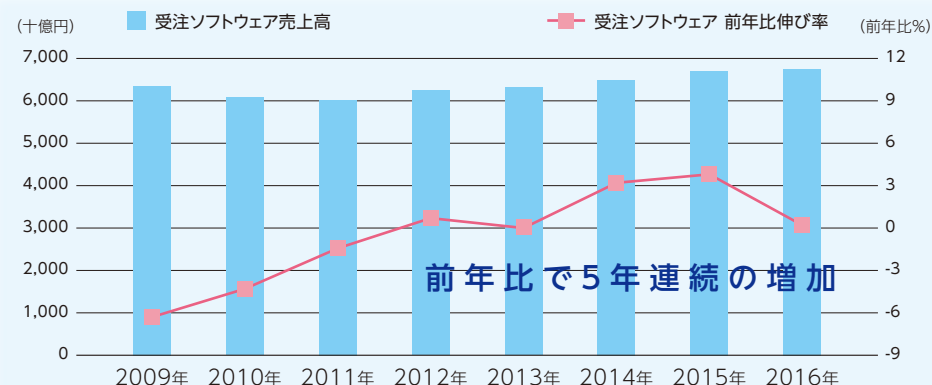
2020年東京オリンピックに向けたICT環境整備、サービス開発

社会システムへのICT活用拡大（高齢化社会、xTech、情報銀行など）

クラウド、IoT、ビッグデータ、人工知能、ロボットなどのイノベーションの加速

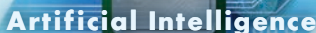
データ通信量の爆発的増加に伴う、通信インフラ増強ニーズの拡大

堅調が続く国内IT市場（「特定サービス 産業動態統計- 受注ソフトウェア」の売上高推移）



的要素にとどまらず、物流・交通・医療・教育などをはじめ、あらゆる産業へと即座に応用され、実用化されています。

AI



人工知能 (AI) は、プロセッサの進化と人間の脳を模した機械学習アルゴリズムの改善により、現在も急速な進化を続けています。

クラウドサービスを活用して、誰もがスマートフォンやスマートスピーカーなどから容易に利用できるようになり、また、ビジネス・アプリケーションへの応用が進むなど、社会の一員として認められてきました。

xTech



金融とITの組み合わせにより
革新的なサービスを生み出した
FinTechと同様に、様々な産業
で、ITを活用した改革が行われる
ようになってきました。

産業固有のサービスを開放することで他分野との連携を実現したり、一般の人が専門的な知識を活用できるようになるなど、産業構造改革に拍車をかけています。

IoT



様々な機器がコンピュータや他の機器とつながる世界では、モノが自らサービスの一部として振る舞います。あらゆるものがつながることで、予想しなかった価値が産まれることも期待されています。

社会でのIoT活用のため、通信技術、開発基盤、サービスプラットフォームなどの整備が進み、本格的な実用化に向けて、着実に進展しています。

5G



超高速・超低遅延・多数同時接続を実現し、あらゆる面で現在の移動通信(4G)を上回る次世代の移動通信では、ただ便利になるだけでなく、サービスの拡張・多様化の実現が目指されます。

医療・教育・物流・エンタメなど
様々な分野に経済効果をもたらす
と目され、さらにIoTの通信基盤と
しての活用も期待されています。

多摩川美化活動に参加して

神奈川県に本社を置く当社では、地域への貢献と環境の美化を目的として、毎年、川崎市が主催する多摩川美化活動に参加しています。

今年で第39回となる多摩川美化活動は、天候にも恵まれ、主催者発表によると、前年を上回る164団体、13,659名の参加があったようです。

今回、当社からは57名が参加しました。環境保全活動の重要性を認識する機会にもなっており、年々、活動の輪が広がっています。

当社では、この他に神奈川県内で開催されるビーチクリーン活動などへも参加しています。今後も、社会貢献活動へ積極的に参加してまいります。



事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金 受領株主確定日	3月31日
中間配当金 受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話: 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先: 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL https://www.alpha.co.jp/ (ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

お知らせ

- ご注意
- 株主様の住所変更、配当金の振込みのご指定、買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
 - 特別口座に記録された株式に関する各種手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
 - 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式会社アルファシステムズ

〒211-0053
神奈川県川崎市中原区上小田中6丁目6番1号
本社(中原テクノセンター1号館)
電話: 044-733-4111(代表) Fax: 044-739-1100
<https://www.alpha.co.jp/>

